



新編 浮世床
初編
三中

明治六年三月一日調
藏番號 志六〇
藏書台如何
な事情あり
乾建の別なく
浄自宅一は
一切御貸渡
不申候
冊數 九
記 治光河石華

へ13
3118
3



特
へ13
3118
3

柳髮新話浮世床初編卷之中

江戸戯作者 式亭三馬戯編



村田

聖吉 コロコロゆづの玉章をんせておれぬどうもつゝ移入る
あるト 懐中より女を産し 羨ましくもあらずとソトを
要文のところをわけてる 羨ましくもあらずとソトを
作 のあはれやくとくのみあがねの川にわが
文句 のあはれから天概そとかな 金五友どの
心 聖の字さ ちやあそねるぜよとさ
不便 露の情をわけてはつらさうと
あびん 露の情をわけてはつらさうと

實を^{しん}御入^ま子^こ速^{すみ}比^ひの^のや^やす^すて^てな^なく^くも^もま^まの^の風^{かぜ}の^の地^ぢ
あ^あか^かへ^へあ^あま^まも^もま^まり^りし^しあ^あさ^さの^の五^ごあ^あじ^じん^{じん}だ^だま^ま
よ^よし^しあ^あま^まる^る早^{はや}速^{すみ}は^はり^りか^かん^んら^らあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら
あ^あて^てよ^よま^まる^る御^ご入^{にん}が^があ^あま^まの^の又^{また}あ^あれ^れが^がは^はり^りか^かの^のあ^あま^まの^の速^{すみ}
ま^まの^のし^しあ^あま^まる^るの^のコ^こウ^ウく^く足^{あし}下^{した}で^でも^も御^ご入^{にん}せ^せそ^その^のあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら
文^{ぶん}字^じの^のか^かも^も這^へ入^いる^ると^とら^らあ^あま^まの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^の後^{あと}を^を信^{しん}じ^じぬ^ぬ
此^{こゝ}河^がの^のう^うら^らく^く御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら
る^るも^も其^{その}中^{ちゆう}小^{せう}あ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^らの^の御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら
と^とら^らあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^らの^の御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら

礼^{れい}儀^ぎの^の禮^{らい}を^を和^わ訓^{しゆん}で^でら^らし^しや^やと^と訓^{しん}じ^じす^す。其^{その}の^のし^しあ^あな^なら^らの^の御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら
誤^ごら^らし^して^て礼^{らい}儀^ぎの^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^らの^の御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら
あ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^らの^の御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^らの^の御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら
罪^{ざい}を^を移^{うつ}す^すの^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^らの^の御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら
全体^{ぜんたい}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^らの^の御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら
御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^らの^の御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら
御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^らの^の御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら
御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^らの^の御^ご入^{にん}の^の本^{ほん}の^のは^はり^りか^かの^のよ^よい^いに^にあ^あま^まの^のし^しあ^あな^なら^ら

お定りのめどくしりしも家う吉んとしりまきごさうてけ中
のみあらぬまじしこと中か〜ご此みあら又それも省略
志て。何も中〜と足え後らぐれちうきお中ぐんのをを移ぎ
はぐらうあむびト中らしてハテテ。移ぎまぶらあむびりりて
移ぎ中はぐらうを拜むかうごめ。〜ころはめ人ぐ〜いりり移への
移へちやアめやまる。〜それらで。何あても通じの移あまごが
俗物ごとりあゆよ。あまり情移入家うらんと譯をあらで
移へちやアめやまる。〜それらで。何あても通じの移あまごが

社つさ。足ぢやア巴ひとり。速知で先入通じ後け位な
白紙をよとと方がとらうふ坊ごせ。〜それら漢中う悪い
移ぎ中らにあんしりあゆごそれどのの字を太きく書
つこの字は傍けかうが悪い。まぶらト傍の。一体移ぎ
まぶらとらあゆの。中ぐんのを〜を移ひましてかうとら
るゆさ。〜フツ。それが移ぎまぶらう。〜まぶら〜ごともものこ
〜まぶらとらあゆの。ト〜あゆで男文字まぶらなを類ひとら
〜まぶらとらあゆの。〜まぶらとらあゆの。〜まぶらとらあゆの。

目録ハ紅毛の十里見「コホメ」^徒「^徒」

「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」

「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」

「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」

「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」

「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」

「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」

「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」

其十四五年も跡の子を時代遠く^徒移入せよ

とやらの大しじのり^徒移入せよ^徒移入せよ

移入せよ^徒移入せよ^徒移入せよ^徒移入せよ

万^徒移入せよ^徒移入せよ^徒移入せよ^徒移入せよ

あし足下も^徒移入せよ^徒移入せよ^徒移入せよ

「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」

「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」

「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」^徒「^徒」

移人そごうア字の遠ざけ「それでもア字をうり知るよ字向を

あてやんとうの才持まから「たうさく」字はあはしりう

三弦をたか踊の地をひく方がうらぶぐらしの字とある後換が

いふとあははまぶ観音さまの青の字をうり移入かにしきけが

七百とり字ぶが「しづう」はくは「百とり」字ぶが「あて」も

吉四雀の鳥の影とりあ物で「手づう」の方「徳」を「し」す「り」

「し」七百よト「火」で「灰の中へ」「り」ヤ「ぶ」は「書」く「は」音「し」ん「う

「て」う「り」と「し」も百換が「り」コ「サ」も「う」も「足」下「ら」な「し

か「ら」モク「く」あ「ん」ま「の」し「移」う「も」も「言」次「対」「そ」な「は」も「の」

横「圖」「を」あ「し」移「入」せ「る」大「む」し「の」お「ま」あ「家」「く」い「く」

「な」移「入」物「さ」る「る」物「さ」る「ま」へ「う」物「さ」り「物」さ「ら」ぶ「サ」「ク

い「く」ト「あ」あ「へ」び「い」す「い」
田あ人もまの

早「飯」の「あ」く「表」さ「く」ト「あ」あ「あ」あ「あ」
あかしのいしあか

ど「り」美「女」の「あ」ま「あ」家「ち」あ「移」入「漫」遊「家」の「あ」く「ま」じ「ら

「ハ」ア「紫」縮「酒」の「常」が「八」國「織」「よ」く「衣」は「裳」付「を」う「り」の「し」あ「ら」ア

「移」入「の」る「ら」外「ま」で「ら」目「く」な「く」移「入」「あ」あ「あ」あ「あ」と「遠」の

けりの上かきると世西御がむらで簪が今風二本しつ
 ざう少し流行よおくれとど甲がけらう目がうめま
 はんそくに付て鼻筋足の爪迄まで通り「はと耳の照す
 割て齒のれ杖齒「祝の因果が子お鞍あつ「おきやアが
 物をさうらう「あけ「美女ど「男好のどる風「真三
 ららうの「ア「髪さるまが跡の方うらめく「てひく
 めねの實の娘が「まらう「遠あるあへ「嫁ご「是非
 述べ「て姑婆が先へまき「歩行く「ゆき「めれへ「又

くらおをまどの「紅裏の惣模柄きつ「ちんとして又好の
 「どらご今のと足とんちんをんまを「そりやアアとの
 利くから先のぬんさ女房よおる「此方がどとほ「おま
 家の為ふらうらな「先のぢや「さぞ焼くならうの「焼く
 けり「あつ「あつ「あつ「あつ「あつ「あつ「あつ「あつ
 「を「を「を「を「を「を「を「を「を「を「を「を「を「を
 焼く「ちん「ちん「ちん「ちん「ちん「ちん「ちん「ちん
 其方よ丹で美中をかせぐ「おん「内が静で「け「け

女房の不器用でもいづかぶ。ぐくぐくと評暮でをこましく。
 真一と大切中。あまう者で内を細くのは。友達の女房の
 小意事で婀娜と。夫者のあつう鯨舎あついで酒でも飲らう
 三弦でも弾らう。イヤあまをえゆであのまきとあうしましごよう。
 まんの酒落き。あぞとらふ浮虚者から「そのやア誰でもさ
 せんまりむい」が好らうせ「志」あれがやうな。あまの女房
 を持居る者も損ごよ「それゆゑ又まきとあうけのおあてがひが
 ぬらるゝ「さううとあまが正公が振も美し女房と持るから

はまの女を擁むからあり「あれはさうさひかならんさ
 ち何鯛むうり食て浮らうと云て。さんまの二物も一はのく
 せんらるゝ「せんらるゝと云て。あまを傍てえて居てきくの毒女の
 瀧とせテ店へ鞆習」と治をたる離とらふ女房とあまを
 のの女ふのろくならう。そのを瀧とら好男と「あの女ふ
 る考らるゝ一体瀧とがまがううよ「何射ひてえとも。
 火神のゆり人二人あまんであまを居居が瀧とが女房のあ
 女房がさううと倚瀧と。よふこでひらほいと居るが何と

くる目ぐまのどくだ瀧もわぬ^{せいのり}人ごころのほり^あ終
 々^くはしうらがるおせ^せ終がめれ^あ止ませ^あ人^せ心^ひ神と難^{ちが}
 と巨燧へ一緒^ごあまるよ「巨燧をこる^せれう^せ重^{じゆう}愿へ一緒^ご
 往^やごらう^ぜ皆^あ老^{らう}同^{どう}穴^{けつ}の契^{ちぎ}のほ^あく^あどと^あら^あめ^あが^あネ^あト^ああ^あ
 めるの「欲^せ庵^あが社^{しや}のそ^せら^せよ^せ。巨燧^ごう^ごと^あて^あ相^あ引^ひの^ああ^あ
 引^ひくと^あるの^あ羽^はの^あ種^ああ^ある^あツ「^あ紅^あ巻^あ巻^あの^あ精^{せい}男^{めい}う^あ々^あ々^あ
 「引^ひぬ^ひき^ひご^ひも^ひあ^ひる^ひと^ひ。女^め房^{ぼう}の^あ家^あ野^やの^あ精^{せい}男^{めい}ご^ごら^ごう^ご「^あ獨^ど吟^{ぎん}
 の^あけ^あら^あぶ^あ節^{せつ}で^あ正^{せい}作^{さく}と^あ助^{すけ}踊^{まわ}で^あて^あ人^{ひと}「^あ志^しり^りし^し陽^{やう}こ^こも

い^いくら^い入^い護^ご神^{しん}の^あ精^{せい}男^{めい}と^あ「^あと^あん^あど^ああ^あ狂^{きやう}言^{げん}「^あら^あら^あと^あ湯^{たう}へ^あ
 往^いく^いや^いも^い友^{ゆう}達^{だつ}と^い一^い緒^{しよ}あ^あら^ああ^あ終^{しゆう}人^{にん}あ^あら^あう^あお^あ焼^やく^あら^あう^あ之^あ福^{ふく}餅^{もち}
 へ^あも^あ妻^{さい}へ^あせ^あね^あが^あら^あ「^あ流^{りゆう}行^{かう}の^あ八^{はち}里^り半^{はん}が^あら^あの^あか^あの^あぐ^ああ^あの^あ
 婦^あ人^{にん}の^あ湯^{たう}着^{ちやく}を^あそ^あの^あ内^{うち}へ^あど^あう^あ買^{かう}あ^あら^あう^あが^あら^あう^あ。う^あぐ^あれ^あせ^あ去^さは^あ
 内^{うち}漏^{もち}る^あの^あゆ^あの^あじ^あの^あ「^あ七^{しち}去^{きょ}の^ああ^あら^あう^あ。腎^{じん}虚^{きょ}の^あ内^{うち}も^あ漏^{もち}れ^あて^あ
 「^ああ^あま^あじ^あト^あ「^ああ^あら^あう^あが^あら^あう^あの^あ「^ああ^あら^あう^あら^あう^あの^あ
 婦^あ人^{にん}の^あ湯^{たう}着^{ちやく}の^あ男^{おとこ}入^{いれ}ま^あら^あう^あて^あ「^ああ^あら^あう^あら^あう^あの^あ「^ああ^あら^あう^あら^あう^あの^あ
 小^あ國^{こく}へ^あ「^ああ^あら^あう^あら^あう^あの^あ「^ああ^あら^あう^あら^あう^あの^あ「^ああ^あら^あう^あら^あう^あの^あ
 小^あ國^{こく}へ^あ「^ああ^あら^あう^あら^あう^あの^あ「^ああ^あら^あう^あら^あう^あの^あ「^ああ^あら^あう^あら^あう^あの^あ
 小^あ國^{こく}へ^あ「^ああ^あら^あう^あら^あう^あの^あ「^ああ^あら^あう^あら^あう^あの^あ「^ああ^あら^あう^あら^あう^あの^あ

おのれ其の忘れぬよ「ふうあんぞ」
 「早く往ね」此茶漬飯の我らり合ふあられり合ふ「うれい
 中の」「早のと遅のが」「たがひの根」「庄屋」「かゝる」「後小
 のりり「ト云々」お方へおまてそれら子分子方をあ方々
 「連々」掲結へ二人「あら」大勢の子ら、ゆるゆる角力れを
 合をくるまふお方なりで。ヨロ「あんな」あぞとん物とわなのさ。
 知事の孫へ奴等とちやア述べう。江戸で都合はるるりんうさう
 「あ」と「二」がの。うくと「あ」と「あ」の「庄屋」詰りよ下
 居て貫上の「下」居るがゆとあり「うりや」飯の合い
 じり「あ」ら「ら」るよ「あれ」うり「我」は「ら」る「な」い「い」ヤ
 ありやはら「ら」る「ら」る「ら」る「そ」の「れ」も「ぼ」ける「ら」る「ら」る「い」い
 「そんな」ま「ま」の「ら」る「い」又「研」の「口」の「毎」日「の」晩「に」砂「場」で「貸」す「者」な
 の代錢二千六百文も其内角注が一文交りさうい「あれ」も
 男ぢやそりや「か」く「す」い「ま」い「れ」は「れ」て「二」十「五」文「の」種「今」こ「こ」で
 「ま」は「ら」う「い」「ま」は「ら」う「い」や「ま」は「ら」う「い」な「ら」う「ま」は「ら」う「い」その「ち」お
 砂場の出入がめはが「あ」つ「も」も「出」入「が」つ「ら」い「掲」結「の」ら「う」茶

十何益と春と代涉おれも愛で うらひ「うさう云やそん
 のちんとい茶「我とおれど出入と出入「あらば定「さうして
 くらうとさうさぞい「うおしとさる▲トひさびさを振つ体と
 「正をかしと▲ト又さあうツ手次出して着らると袖あらう
 するやうなこいしはまゝいゝるもさうく万葉とひさびさ
 を上るのいんごゝの机さすゝゝゝゝゝそれごとくさみん短し
 正し物 紅とでえとさるが縁かまゝはてゝいひゝつ子地早と
 る。でも目おつゝら極ど此世のといふが速い、あゝゝゝゝ

後天をホシくくくろくろくおんさばは奴をいゝる際、向座を
 出又飽丁の注休の注と「いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 のの出刃庵てえん、おや、いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 迷惑とそめおし、いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 親があゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ののとも諭おつゝのあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 かんてら「ササいんよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 トットノ撲入ちやあんまふ男をまゝ、いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 のの者、まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

詞條の利詰やとほむさくら。これではなほさくらが
云ても冷がぬいさういトット放ちくぐえらひの。そりや馬鹿
者ぢやとあらわして負てが社ん堪忍五あ有て之支の務利
ぢや對もふうらんどひ清らもせど人のほ端あもかくらど
面くのさしこまぢや判れ。これこそ男達とらわれもすれ。
今のやうなるの。新来の大ぶくどう。軍書でいひ
無武吉らや。はよふて世の中は化物の呻う。馬鹿ののが
大いはいふ。そこらや。江戸のびんちが男の。おれは手後

厳ちう。肩でかや役とらぬ自慢ぢやあるの。上方あ

これ。とつ御者の物もぬいぢや。大ぬのく。海がさいと。り。くも

えんさぢやさい。京都。別く。正成の地らやさうの男も。女子は

かうで万。千。か。さ。ふ。は。む。や。りの。一。京。の。着。倒。が。な。あ。と

あつておれがま。年。上。方。へ。上。る。時。京。の。花。客。山。へ。登。つ。て

ほ。う。う。ら。ぬ。は。と。も。な。に。さ。し。く。ざ。ん。く。と。音。が。と。ら。る。海。の

は。る。の。で。も。な。い。め。の。震。動。と。ゆ。ご。こ。め。さ。う。傍。小。居。る。人。が

し。ら。め。の。け。さ。し。申。して。茶。粥。と。は。音。が。こ。ら。ち。や。あ。ら。て

害く者ぢらふと云うがおれもあつた町をばしこつてけ「まゝ
 わどづれらふらの。爰に亭主のどらめつとットかゝるん
 佛の口田ぢや「それのあれこゝろ。おまへがどんあふ力な
 ころても江戸の警急の地ぞ。江戸でなうとて荷の受けつら
 海へうら海へうら海へうら海へうら海へうら海へうら海へ
 ざがが「こゝろの。まゝ。江戸の諸國のたふん大切な
 口得まゝ何ころら江戸のたふんはけしん江戸の諸國のたふん
 中と男らふら海へうら海へうら海へうら海へうら海へうら海へ

見えはへそりや。警急の地ぞ。江戸でなうとて荷の受けつら
 海へうら海へうら海へうら海へうら海へうら海へうら海へ
 てと上方者同はらや成れど。わらてもトへ下とあがた
 有中らぢやけどトットは諸國のたふんはけしん江戸の諸國のたふん
 岡に師匠め湯つてとろぞ。まが。お江戸とらふた此上もある
 警急の地ぞ。金没が目のあふらふはけ。まやふよつて大道
 金没はくそ。早う拾へ早う没いとまぬむらぢやが。江戸のた
 其金と没くつら下すらやうい。金が嫌とんえらふ

銭相場が安^{やす}く^て的^{てき}さん^もに合^あつ^まし^とや^ちん^のさ^んじ^つの^まじ^らひ^を
 中^{ちゆう}ち^や「あ^まし^の天^{あま}窓^{まど}の^よら^ちや^の大^{おほ}あ^らむ^のう^らう^の三^{さん}割^{わり}ま^し」^と云^いふ^は
 か^り後^{のち}も^やア^の合^あつ^まし^と又^{また}な^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も
 を^らな^れて^髪結^{むす}ぶ^大あ^らむ^の場^ばを^して^一向^{むか}ひ^合つ^まし^と「ナ^ニ、
 は^いぞ^江戸^のの^駕籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^もと^らな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も
 の^のあ^れ後^{のち}も^やア^の合^あつ^まし^と又^{また}な^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も
 道^{みち}中^の連^れな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^もと^らな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も
 此^{こゝ}れ^でと^らな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^もと^らな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も

か^らい^のち^もも^の安^{やす}上^{の上}の^しら^のは^の音^ねも^もと^らな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も
 百^{ひゃく}三^{さん}十^{じゅう}里^りの^道中^の往^ゆ来^の事^{こと}で^二分^{ぶん}此^{こゝ}れ^でと^らな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も
 り^んど^子「コ^レ」^作好^よ業^{わざ}なる^のお^のち^のあ^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も
 の^のあ^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^もと^らな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も
 は^いぞ^江戸^のの^駕籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^もと^らな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も
 駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^もと^らな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も
 上^うの^跡く^らの^駕籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^もと^らな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も
 ち^とな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^もと^らな^らむ^のう^らう^の駕^が籠^{かご}の^しら^のは^の音^ねも^も

かるるおのゑ掛声をせんとしりあふ跡さ奴めがう掛声く
 能るやさちでさる。いね左平次ぢやとらねさるゆり
 りの窓う移もたまふんさうの。とんまゝ掛声せいでだんま
 がながお海なからけお業紙れこのぢやとらねさる。あつや
 三枚ぢやとらねさるの移。二枚ぢやとらねさる。おまへの二枚並
 ぢや。二ア二枚並ぶ掛声とかけらねるゆりおまへ入まへお
 かりいんあきれトあふドス声ぶきあいらあふりてはしも
 あふいと消ては糸糸と「おまへ」作兵衛さん入まへおまへ

備「おまへ」おまへおまへの「おまへ」おまへがう「おまへ」おまへと
 アノ海無めがとらねさるの「おまへ」おまへへおまへとらねさる
 ぜんまうでかりいんあきれトあふドス声ぶきあいらあふりてはしも
 おまへのあふりては糸糸と「おまへ」おまへおまへの「おまへ」おまへと
 おまへのあふりては糸糸と「おまへ」おまへおまへの「おまへ」おまへと
 城へ射る「おまへ」おまへの「おまへ」おまへの「おまへ」おまへと
 手ぬぐひやかきおまへ「おまへ」おまへの「おまへ」おまへの「おまへ」おまへと
 びんちゆういんあきれトあふりては糸糸と「おまへ」おまへおまへの「おまへ」おまへと
 タシカさうぢや「おまへ」おまへの「おまへ」おまへの「おまへ」おまへと
 一度あふりては糸糸と「おまへ」おまへの「おまへ」おまへの「おまへ」おまへと

^ヤせり入^{えりまう}せ南^{えりまう}漆^まぢやとほらうり。ツツトまうせと急^{いそ}だご
 の^のツツテ五六^い丁も往^{あつ}つてとごめと俄^{あつ}に遅^{あそ}うならてゆてへ
 とかたごうさつ。ユリヤノ一^{いせ}息^そまぢや其^{その}代^{たがひ}の南^{えりまう}漆^まぢやの
 の早^{はや}にせつらう。又^{また}掛^か声^{こゑ}とまうさとかけぬる。ユ
 五^い丁^{ちやう}づも往^いつら又^{また}ゆてへとかたをる。ツツテ秘^ひめまうせく
 さつ。ユリマうぢやの南^{えりまう}漆^まぢやがナ。あんであまの急^{いそ}だ
 くれうら南^{えりまう}漆^まぢやもせけりや否^{いな}ぢや南^{えりまう}漆^まぢやとせり
 した又^{また}けをる。まうして土^ちまへへうらうらしむ。

片^{かた}生^{なま}とて女^めの篤^{あつ}きかきめがまうらう。しう居^ゐ
 るまうこおりのんせえのハテ南^{えりまう}漆^まぢやようろがのト行^ゆうと
 せはとぢやうぢやうたがまうせうらうり。あんぢやとみらうら
 言^{こと}の約束^{やくそく}が南^{えりまう}漆^まぢ三^{さん}片^{ぺん}ぢやとせり。イヤムら片^{ぺん}の
 せぢやとらうら。イヤく南^{えりまう}漆^まぢ中^{なかつ}とらうらゆてなうら
 ころのまう二^に葉^はぢやとまひくまうて那^なでも非^ひぢやうけ
 ちなぬ。仍^いち非^ひぢやうけなてまう百^{ひゃく}七^{しち}ヤモまうら目^め
 ぼく出^いでいふ。

のるから。ア、初め、ちりちり折、と、この中々の家へ娼妓買、
 往、さ、ま、う、ぶ、る、の、者、何、や、角、が、城、で、仕、舞、く、度、入、往、さ、る、さ、る、の、
 私、ひ、と、り、は、き、離、さ、れ、て、後、ま、が、あ、わ、ん、が、や、あ、る、ま、の、う、り、
 着、附、が、之、を、後、で、め、ら、る、さ、る、の、ハ、ア、こ、れ、ら、何、で、も、け、し、
 娼、人、を、あ、て、着、あ、ら、る、の、ち、や、と、あ、あ、て、テ、今、ま、が、推、が、あ、い、
 の、ソ、テ、上、の、蒲、團、を、持、よ、て、ト、二、枚、の、蒲、団、の、上、へ、そ、り、と、
 這、入、く、蒲、團、を、あ、く、着、あ、て、ぬ、ら、と、サ、ア、娼、妓、が、あ、て、る、を、行、
 け、さ、ん、の、ろ、悪、チ、ヤ、リ、の、の、あ、を、あ、て、れ、ば、ち、や、の、と、あ、た、い、
 け、り、と、何、に、中、ら、往、り、は、仕、舞、と、ハ、テ、め、ん、よ、る、ら、ち、や、が、
 お、り、や、何、も、あ、ら、な、い、と、さ、ん、ら、あ、の、う、と、あ、の、あ、て、あ、る、と、
 川、舟、が、あ、り、て、ナ、先、に、お、り、と、ら、あ、ら、の、紀、と、う、テ、あ、ま、入、ん、着、
 る、中、う、と、あ、ら、く、度、入、上、へ、着、あ、ら、る、と、い、ら、あ、て、蒲、團、の、
 上、へ、着、あ、ら、く、て、果、つ、ら、い、ハ、ト、あ、あ、て、お、ら、く、さ、う、ね、が、あ、
 後、の、入、と、錦、の、お、着、が、ナ、蒲、団、の、裾、の、方、に、有、ら、う、い、私、
 又、こ、の、推、を、あ、く、ナ、娼、妓、の、衣、は、衣、を、積、む、の、ち、や、と、あ、あ、
 り、の、あ、く、ナ、あ、の、あ、く、こ、ん、さ、い、バ、あ、あ、ら、く、其、の、
 其、の、
 其、の、

短
いふもほしくなりやうと物居かきつてお谷を記す

うさア移りしその子ニヤと長きうさアニヤ
と甘うニヤとせうでる五大力のやうと
中あふ
ちのあまもりと

おら野郎をきく移りうさエ
中
あふ
か
は

はんでうもやアがうう形もつる移り
今朝出のうエ
中
あふ
か
は

と移りし子何れもさうさう漢町の徳を
一休の
中
あふ
か
は

も居移り悪い癖な中郎と
馬鹿
中
あふ
か
は

あれが目の黒の肉の社
福のそ
中
あふ
か
は

内よ不考をけけし社
病目で目の赤のけけ
中
あふ
か
は

らう馬鹿アニヤ
好藁があつた
中
あふ
か
は

こまのうさアのニア
移りのうさア尻
中
あふ
か
は

何れがあれ移りせ
あめが尻をぬぐう
中
あふ
か
は

うさかまひつた
中
あふ
か
は

白くして使
中
あふ
か
は

なるも身を精申て其屋やう 其身も始終はじめとしまへは
 親おやらも老入おしれかい 志方りやうほうの都合あはせとあらう所の世郎やうらうが申まをらう
 世路よじを申まをせば奴やつの親おやが苦勞くらくらうと罪つみを申まをらうても立行たちゆきの
 うも秘人ひにんのさ。親おやの子こが了愛りやうあいのうも罰ばちを申まをらうは氣きを
 申まをらうと天道てんとうと申まをらうとてあはれ。終ひる得えが南みなみのうも。
 ろんのうも。おれ人が方も今いまのうもあらう。いんじんかほはらう
 せくおれ人おれにんのうも。いんじんかほはらう。行ゆくはらう
 何なにのうも。いんじんかほはらう。行ゆくはらう

ケイけいのうも。いんじんかほはらう。行ゆくはらう。
 苦勞くらくらうと申まをらうのうも。いんじんかほはらう。行ゆくはらう。
 めの急角とまげのうも。いんじんかほはらう。行ゆくはらう。全体ぜんたい子こも悪わるい
 くれど親おやのうも。いんじんかほはらう。行ゆくはらう。小見こぼみの射やらう。云いはらう。いんじんかほはらう。
 身みとエテあはれなる。いんじんかほはらう。行ゆくはらう。血ちと
 をあちのげて駈かいであはれ。いんじんかほはらう。行ゆくはらう。金かねの
 捨すてて。ちんごうの。いんじんかほはらう。行ゆくはらう。流ながる。いんじんかほはらう。行ゆくはらう。
 何なにのうも。いんじんかほはらう。行ゆくはらう。

かゝるゆゑをきつては木の目まのめ、

かゝる居るうちは、さういふ移うつりのちひ十八九のとこを

評判ひやうばんのせむし者ものとつけ、つうの間まのへんを放どつ考めふ所ところ

へ人の三十歳とせとてさういふなるらうのちひさういふよそのやうに

こゝろやどののさういふやどののさういふさういふさういふさういふ

移うつるま、遊あそびとらゐるのちひさういふのちひさういふのちひさういふのちひ

さういふやうにあつて、物ものどうもさういふさういふさういふさういふ

さういふと、さういふさういふさういふさういふさういふさういふ

さういふと、さういふさういふさういふさういふさういふさういふ

さういふと、さういふさういふさういふさういふさういふさういふ

揃そろとたまふぬテ。トつひさういふさういふさういふさういふさういふ

と揃そろもさういふ。積たかれ五ご、二百ふたひゃくと、さういふさういふ

村田

新話浮世來初編

